

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果

作成日：平成21年9月19日

【評価実施概要】

事業所番号	2873300699		
法人名	株式会社西日本介護サービス		
事業所名	グループホーム ウィズライフ伊丹		
所在地	(〒 664-0011) 兵庫県伊丹市鑄物師1丁目5-4		
	電話	072-773-7231	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区菘乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成21年8月12日	評価確定日	平成21年9月19日

【情報提供票より】〔平成21年8月3日 事業所記入の同書面より要点を転記〕

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年12月15日		
ユニット数	2ユニット (利用定員…計18人)		
職員数	18人	(常勤13人)	(非常勤5人) / 常勤換算15.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	地上2階建て建物の 1階～2階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000円	その他の経費(月額)	28,000円
敷金の有・無	無し		
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り (195,000円)	(保証金有りの場合) 保証金償却の有・無	有り
食材料費	朝食	300円	昼食 400円
	夕食	500円	おやつ 円
			円

(4) 利用者の概要 (平成21年8月3日 現在)

利用者人数	計18名	… (男性3名)	(女性15名)
要介護1	5名	要介護2	6名
要介護3	1名	要介護4	6名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均85歳	… (最低65歳)	(最高95歳)

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川勝クリニック	臼井歯科医院	高田病院
---------	---------	--------	------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

隣接敷地には「ひじおか天満宮」があり、利用者は、ホーム前の参道を森林浴も楽しみながら通り、神社に詣でている。「地域との繋がり」にも積極的に取り組み、徐々に成果がでてきている。毎朝のホーム周辺の清掃活動や地域行事の手伝い、地域交流会館への訪問も定着している。また、ご近所にお住まいの方々との交流も徐々に広がってきている(ご自身で育てた花や植木を毎月届けて下さったり、菜園での収穫物を届けて下さる方や毎年の干支や縁起物のかわいい手作りの編みぐるみを頂戴する方等々)。気軽に地域の方が立ち寄って下さる理想のホームになってきている。今後の目標の一つとして、ホームが、地域の方々の身近な「介護相談窓口」として機能し、地域貢献ができるよう尽力している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	①「あじさいの家」への訪問は、週1回継続している。地域の方と利用者が馴染みの関係になってきている。②自己評価は職員の振り返りの機会として取り組んでいる。③運営推進会議の議事録の様式を変更して、家族全員に送付することを検討している。④市の高年福祉課から要請があり、地域包括会議に出席している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	職員全員で取り組むことを基本とし、ユニットごとに職員がまとめた自己評価を、管理者が一つの自己評価表として作成した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6)
	自治会副会長、民生委員、利用者、家族、職員が参も開催している。利用者状況やホーム行事の報告をしている。会議では、地域の焼きイモ大会に誘って頂いたり、育児サークル「あじさいの家」を紹介してもらおう等、地域交流に繋がる情報提供がある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	家族が訪問された際に、利用者の現在の状態を報告し意向を聴いている。遠方にお住まいの家族には、安心してもらえるように職員が電話にて、日々の様子をこまめに報告している。月1回訪問の介護相談員は、利用者との馴染みの関係にあり、意見を頂いている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	ひじおか天満宮の祭礼や灯りのイベント(毎年9月)、自治会の盆踊りに参加し、季節ごとの地域の方とのふれあいが定着している。近隣の方から、「お裾わけ」の野菜や果物を頂戴したり、恒例のホームの餅つき大会には、地域の方が家族ぐるみでの参加もあり、ご近所付き合いが利用者の楽しみごとになっている。

2. 第三者評価結果

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者と職員が新しい家族になって、「ともに暮らしましょう」という思いで、「自分らしく最後まで…」「新しい家族」の理念をつくりあげている。そこには、利用者がその人らしく、地域の方々、職員と一緒に地域の中で暮らし続けていくという思いが込められている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を日常のケアに活かせるように「毎日、本気で笑いたいねん」「みんな仲良く」と各ユニットごとの目標を掲げ、利用者新しい家族になって共に行動しながら、地域の方とご近所付き合いができるように日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方と気軽に名前呼び合えるお付き合いができている。地域清掃や子育てサークル「あじさいの家」への訪問も定着している。地域行事への参加やホーム行事への地域の方の参加も、季節ごとの恒例となり定着している。今後は、家族に地域交流での利用者のご様子を報告することを検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を日々のケアの振り返りの機会と捉え、職員全員で取り組んでいる。評価結果の項目の一つひとつをケアの目標とし、達成することが利用者の生活の質の向上に繋がることを理解し、日々のケアの中で目標達成に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームの状況や行事報告の他、地域行事の情報収集を行っている。今後の会議については、ご近所力アップに繋がる介護勉強会等の開催や、会議を親しみやすいネーミングにすることを(地域の方に参加してもらえるように)、議題とすることを予定している。	○	定期的(2ヶ月に1回)の開催に向けて、地域包括支援センターに協力の相談をしてほしい。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のグループホーム連絡会・地域包括会議に参加し、情報交換や意見交換を行い、市や地域包括支援センターと連携してサービスの質に向けて取り組んでいる。地域包括会議で、成年後見制度について学ばせて頂き、入居契約の際に制度について説明している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時を利用して報告するとともに、「ふれあい通信」を毎月発行して、利用者の個々の健康状態やアクティビティ参加の様子、生活状況の他、職員の異動等の連絡事項や次月の行事予定を記載し、家族に送付している。遠方にお住まいのため訪問することが難しい家族には、電話にて日々の暮らしぶりを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時や電話連絡時に家族が意見や要望を表出しやすい関係づくりを心掛けている。頂いた意見については、改善に向けて職員で話し合い、結果を家族に報告している。今後は、家族アンケートを有効活用できるように検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	正社員登用や手当について待遇面の改善を行い、職員とのコミュニケーションを大切にすることで、離職を最小限に抑える努力をしている。職員交代時のリスクを回避するために、利用者や家族と新職員との関係づくりに配慮するとともに、離職した職員が、気軽に訪問できる関係づくりをしている。		


外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて、新人研修及び実践者・リーダー・管理者研修を実施している。キャラバンメイトの研修受講済の管理者による、内部研修を計画している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターの協力により、グループホームケアマネ連絡会が発足(H20.10)し、ケアプラン勉強会を実施した。ケアプランの様式変更や課題分析について、意見交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。また、兵庫県内の他ホームとの相互見学を通じ、季節が感じられる環境づくりの参考にさせてもらっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の本人と家族の不安を軽減するために、ホームでの暮らしについて説明を行い、本人と家族に相談したうえでホームに遊びに来て頂き、他の利用者とは話をしてもらったり、ホームの雰囲気をみてもらい、無理なく安心して入居して頂ける工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	「新しい家族」の理念に基づき、利用者職員が家族として生活していると捉え、家事等を一緒に行いながら、利用者に学ばせて頂き育てられていることに感謝の気持ちを持ち接している。さらに、利用者同士の関係も把握して、支え合う関係を大切にしている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴のアセスメントを丁寧に行い、入居以前の暮らしを遮断しないように馴染みの環境づくりの工夫をしている。(学生時代の友人との交流・お気に入りの美容院への付添い等)また、利用者の意向を把握するのが困難な利用者については、「自分らしく最後まで…」という理念のもと、家族と相談しながら本人の意向を推量している。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	24時間アセスメント表とケアチェック表に基づき毎月作成しているモニタリング表は、生活課題がわかりやすい様式に変更して家族に送付している。医療に関する記録は、色を変えて記録し分かりやすい工夫をしている。利用者や家族、主治医、歯科医、鍼灸師等に意見を伺いながら、介護計画を作成している。	○	全職員が課題を共有し利用者とともに目標達成に向けて取り組めるように、利用者や家族、必要な関係者から頂いた意見が反映した実現可能な介護計画の作成を目指してほしい。目標達成ができることが、利用者や職員のモチベーションアップに繋がると捉えてほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しを行うとともに、モニタリングを毎月行っている。利用者の心身の状態変化を見逃さないように、普段とは違うという気づきを大切にしている。状態に変化がある場合は、その都度、見直しを行い現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状態に応じた福祉用具(介護保険外)の提案をしている。訪問美容や訪問鍼灸が利用できるように支援している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週のかかりつけ医(24時間医療連携体制)の往診や、定期的な歯科医や鍼灸師の往診を、利用者や家族が納得した上で利用してもらえるように支援している。専門病院への受診も家族と相談しながら、受診の支援をしている。往診の医師や看護師は、認知症に詳しく、馴染みの関係になっているので、気軽に相談することができる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームとして「重度化した場合の対応に係る指針」を定め、家族会で説明を行っている。介護計画も見直し時には、終末期に向けての意思を確認して、家族等と「看取り介護・医療に関する同意書」を取り交わし方針を共有している。また、終末期についてご家族より質問があれば、その都度説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の意思及び個人の尊厳の尊重をケアの基本姿勢としており、誇りやプライバシーを損ねるような言葉使いをしないように徹底している。特に利用者のライフスタイルを否定してしまうような言葉かけや対応をしないよう、心掛けている。また、個人情報の取り扱いについては、十分に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切に、馴染みのライフスタイルが優先できるように工夫している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者ひとり一人の生活歴や力を活用して、利用者のペースで米とぎ、盛り付け、配膳、食器拭き等の食事の準備や後片付けを日々利用者と一緒にやっている。おはしや湯飲み、コップ等は、利用者個々の好みのもので利用してもらっている。一緒に調理すること・料理を食べてもらうこと・食べることを楽しんでもらえるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる準備をしており、個々の希望やタイミング、利用者の状態に合わせた入浴介助を行い入浴を「楽しめる」よう支援している。また、利用者が自発的に入浴を希望できるような雰囲気づくりを心掛けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	育児サークル「あじさいの家」のお役に立ちたいという利用者の希望に沿い、あじさいの家で使用している座布団カバーの洗濯を利用者と職員が協働して行っている。家族や訪問歯科医から合唱や浪曲のボランティアを紹介して頂き、利用者の楽しみごとの支援をしている。利用者の楽しみとなっている地域の季節行事への参加を継続している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	育児サークル「あじさいの家」への訪問や日課のひじおか天満宮への散歩、お気に入りの美容室や買い物外出等、利用者の希望に沿って外出が楽しめるように支援している。お花や植木の水やりも地域の方に教わりながら行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が、鍵をかけることの弊害を理解している。利用者の安全面に気を配り、職員が利用者の動向に常に注意を払って仕事をする意識が浸透している。ユニットの出入り口は、開閉するとチャイムがなる工夫と外出するときは、「行ってきます」と職員への声を掛けが習慣になるように努めている。(張り紙もしている)		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	「緊急対策マニュアル」や「リスクマネジメントマニュアル」を整備し、年2回消防訓練を行っている。ホーム通信に避難訓練の内容を掲載し地域に配布し、災害時に協力が得られるように近隣の方との良い関係を継続している。	○	災害時に迅速に救助活動が行えるように、個人情報に配慮した援護利用者リスト(救助に必要な利用者情報提供票)をまとめ、準備されたらどうか。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日配達される新鮮な食材(シルバーメニュー)を基本にして、栄養バランスに配慮した食事を提供している。食事や水分摂取量が安定するように一人ひとりのその日の状態や習慣に合わせて、刻み食やかゆに変更したり、持てる力に合わせて食事介助や見守りを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には、地域の方から届いた鉢植えの花や、利用者と協働して育てている季節の花や野菜を植えている。廊下に観葉植物を飾ったり、玄関やエレベーター前にはベンチを設置して、利用者同士でおしゃべりができるように工夫している。また、リビングには和室があり、「住まい」として落ち着ける雰囲気づくりを心がけている。季節感がある空間づくりについて、他ホームの見学を行い、参考にしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みや生活習慣を大切にするために、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたベッドや家具などを、持ち込んでもらい居心地よく過ごせるように家族にも協力して頂いている。また、利用者が手作りの作品を飾ったり、自身で居心地よく過ごせるように工夫してもらっている。		

※  は、重点項目。